

東京 陵水

賀 正
平成17年 元旦
陵水会東京支部役員一同

8	面	目次	10	面	随想	11	面	会員情報
4	面	こんには	12	面	図書紹介	13	面	ゴルフト談義・囲碁会便り
3	面	成瀬学長インタビュー	14	面	彦根コンフィデンシャル	15	面	年会費納入者一覧
2	面	堀川陵水会理事長年頭挨拶	16	面	広告			
1	面	十六年度総会・役員幹事会						
		宇治原支部長年頭挨拶						
		滋賀大学経済学部は、歴史ある大学です。日本経済を支え、実業界をリードする多くの企業や実業家を生みだした近江の地に設置された、官立彦根高商を前身校としています。爾来、数						

新年あけましておめでとうございませう。

陵水会東京支部会員の皆様におかれましては、平素より陵水会活動へのご理解をもちまして、ご支援並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年六月、私は、八十周年記念事業をはじめ、重責を果たされました岡田前理事長より、理事長の大役をお引き受けすることとなりました。母校の滋賀大学は、独立法人として国立大学法人となり二年目を迎えます。これにより大学運営の自由度が拡大する一方、自主性と自己責任をもって大学経営の責務を大学自身が担うこととなります。

した。理事会では新しいメンバーも加わり、毎月会合を開き、陵水会活動の一層の活性化に取り組んでおります。スケジュールの都合上、昨年から直ちに採用することができませんでしたが、陵水会年報で申し述べました、母校の実践的教育後援を中核にした活動方針につきまして、必ず実施していくことを約束いたします。

上げられるまでになっております。私は、法人化という外圧を大改革のチャンスであると捉えております。滋賀大学経済学部は、歴史ある大学です。日本経済を支え、実業界をリードする多くの企業や実業家を生みだした近江の地に設置された、官立彦根高商を前身校としています。爾来、数

日に大学二十六回卒OBによって運営され、三回生を中心に百数十名が参加しました。毎年の恒例行事ではありますが、運営を担当する卒業年次の方々の献身的な準備と、後輩に助言を与える懇篤な様子は、滋賀大学の伝統を象徴するものです。陵水協力講義は、『現代の経営』をテーマに、昨年は伊藤忠商事(株)にお願いいたしました。七月八日にシリーズの最終講を迎え、本学リスク研究センターの客員教授で作家の幸田真音氏と、伊藤忠商事(株)会長の丹羽宇一郎氏のお二人の講師で総まとめの講義がなされました。

また十二月三日には、新たな試みとしてジュニア陵水懇話会が開催されました。これは、一回生の段階から、学生自身が自己の進路をいかに切り拓くかを考えるきっかけを与えることを狙いにしたものです。講師は、桂泰三氏(経専二十三回卒、シヤープ(株)元副社長)と宇治原嘉政氏(大学7回卒、(株)あさひ銀行元副頭取、現陵水会副理事長及び陵水会東京支部長)にお願ひし、『学生に語る』と題して基調講演をしていただきました。告知が不十分だったのか、参加者は数十名に留まりましたが、両講師とも大企業で功を成し、名を遂げた実績を持ち、また大変な勉強家である為、説得力があり、学生に多くの感銘を与えました。阿知羅経済学部長から「ジュニア懇話会は、小さな大講演会であった。自分の授業ではこれだけ熱心に聴いてもらったことがない。」と講演後の挨拶をいただきました。

さて、地方国立大学の地盤沈下が言われる中、私立大学の中には着実に合理化と改革に成果をあげているところがあります。たとえば立命館大学は、将来の財政難が当時の延長線で見られた昭和五十四年から改革に着手、現在では、「産学連携」に強い大学改革のフロントランナーとして経済専門誌(『財界』二〇〇四・六・二十二)に取り

多くのビジネスリーダーを世に送り出して参りました。歴史に裏付けられた貴重な人的資源と無形資産を陵水会は有しております。昨年、就職のアドバイスを現役学生に語る陵水懇話会や、陵水協力講義を実施いたしました。陵水懇話会は、十一月二十

二ページ上段につづく



年頭挨拶
新年あけましておめでとうございませう
陵水会理事長 堀川 馨

た。理事会では新しいメンバーも加わり、毎月会合を開き、陵水会活動の一層の活性化に取り組んでおります。スケジュールの都合上、昨年から直ちに採用することができませんでしたが、陵水会年報で申し述べました、母校の実践的教育後援を中核にした活動方針につきまして、必ず実施していくことを約束いたします。

滋賀大学経済学部は、歴史ある大学です。日本経済を支え、実業界をリードする多くの企業や実業家を生みだした近江の地に設置された、官立彦根高商を前身校としています。爾来、数日に大学二十六回卒OBによって運営され、三回生を中心に百数十名が参加しました。毎年の恒例行事ではありますが、運営を担当する卒業年次の方々の献身的な準備と、後輩に助言を与える懇篤な様子は、滋賀大学の伝統を象徴するものです。陵水協力講義は、『現代の経営』をテーマに、昨年は伊藤忠商事(株)にお願いいたしました。七月八日にシリーズの最終講を迎え、本学リスク研究センターの客員教授で作家の幸田真音氏と、伊藤忠商事(株)会長の丹羽宇一郎氏のお二人の講師で総まとめの講義がなされました。

また十二月三日には、新たな試みとしてジュニア陵水懇話会が開催されました。これは、一回生の段階から、学生自身が自己の進路をいかに切り拓くかを考えるきっかけを与えることを狙いにしたものです。講師は、桂泰三氏(経専二十三回卒、シヤープ(株)元副社長)と宇治原嘉政氏(大学7回卒、(株)あさひ銀行元副頭取、現陵水会副理事長及び陵水会東京支部長)にお願ひし、『学生に語る』と題して基調講演をしていただきました。告知が不十分だったのか、参加者は数十名に留まりましたが、両講師とも大企業で功を成し、名を遂げた実績を持ち、また大変な勉強家である為、説得力があり、学生に多くの感銘を与えました。阿知羅経済学部長から「ジュニア懇話会は、小さな大講演会であった。自分の授業ではこれだけ熱心に聴いてもらったことがない。」と講演後の挨拶をいただきました。

二ページ上段につづく

提供していきたいと考えます。今後とも陵水会は、歴史ある滋賀大学の底力が十分に発揮され、大学に求められている構造改革が達成されるよう、ひとつの解に満足せず、後方より柔軟な姿勢で支援して参りたいと思えます。陵水会東京支部会員の皆様のご理解並びにご協力をお願い申し上げます。

陵水会東京支部総会は、五月十九日(水)午後六時から文京区後楽一丁目の後楽園会館一階会議室において開催された。卒業年次毎の当番幹事に、今年は大谷貞夫幹事長(大12)の開催された。

守谷貞夫幹事長(大12)の開催された。

会の挨拶に続き、宇治原嘉政支部長(大7)は挨拶で、母校創立八十周年記念募金運動実績の協力に謝し、四月一日からの母校独立行政法人化の発足の意義に触れ、陵水会会員の役割は知識・技能・ノウハウを法人化の趣旨に沿って活用し、母校の発展に手を差し伸べてゆくことに求められていると述べた。

議長を箸方海三氏(大4)が務め審議に入った。田村寿夫事務長(大12)から前年度の事業報告並びに収支決算報告が行われ、高木早苗監事(本24)の監査報告があった。更に支部幹事

平成十六年度東京支部総会

独法化の発足により、
陵水会は母校を力強く支援しよう

役員改選は副幹事長中川寿一氏(大10)の任期満了により、新たに山本保氏(大15)が選出された。

来賓祝辞で母校新経済学部長・阿知羅隆雄教授から母校の現状と今後の大学経営の難しい側面について説明があった。

講演会は、「大学改革で母校はどうなる」の演題で母校前経済学部長・北村裕明教授が講演された。会場を移して懇親会に入った。宇治原支部

議長を箸方海三氏(大4)が務め審議に入った。田村寿夫事務長(大12)から前年度の事業報告並びに収支決算報告が行われた。やがて恒例の賛歌、学歌、高商校歌の大合唱が続き、午後九時閉会となった。

平成十五年度決算報告
収入の部 二、四五七、七一六円
(前年度繰越

二、六二二、九五五円)
支出の部 二、四一九、〇六六円
(次年度繰越

二、六六一、六〇五円)
財産目録 三、七二二、六〇五円
(前年度比 九十九・七%)

平成十六年度予算
五、三四七、四五五円
(前年度繰越を含む)



会議場風景



東京支部の発展を祈念し乾杯

平成十六年度 第二回役員幹事会の開催

平成十六年十一月二十五日(木)午後六時から、文京区後楽一丁目の後楽園会館において、本年度第二回の役員幹事会が、幹事役員三十一名の出席のもとに開催された。議長に守谷貞夫幹事長(大12)が就き、(1)役員改選の件、(2)平成十七年度の現状、(4)「東京陵水」発行作業の現状、(5)年会費振込み状況報告、と議題が多岐にわたった。役員改選について、宇治原嘉政支部長から、現執行部の次期統投、副支部長候補の推薦と、当支部選出の評議員改選の内容とその理由の説明があった。

「現執行部は来年度の支部総会で一年二回の任期が終了するが、諸般の事情により統投したい。堀川現本部長の就任にあたり、全面的に協力をしてゆくと約束している。当支部規定では二期まで就任が可能となっているので統投しなくお諮りする。大学法人化にともない、陵水会は多くの事を今協議している。また東京支部のネットワークを広め、強化し、交流化を推進するためには、多方面の方々

に協力を呼びかけてゆく必要がある。そこで副支部長を必要とするため候補者として大学九回の西坂徹雄さんを推薦したい。山本ゼミの出身、丸紅に勤務、最終は代表取締役専務として海外プラント事業を統括している。就任をお願いしたところ内諾を得た。」

来年度五月の総会にて上記執行部案を上提することに決定した。続いて西坂徹雄氏から副支部長候補受諾の挨拶があった。さらに、宇治原支部長から評議員候補十六名の改選について説明があった。

「本部評議員について当支部規則十四条には「選出」となっているが「改選」という言葉がない。本部規程の第四章評議員二十六条の記載にあるように、今までは一度選ばれた会員に、今までは一度選ばれた会員はよほどの事情がないかぎり、就任の状態が続いてきた。しかしここにおいて高齢化、長期にわたる就任期間などを考慮して適宜交替してゆくほうがいいのではないかと考える。当支部は会員数の関係で現在十六名が割り当てられている。先ず執行部(支部長、副支部長、幹事長、副幹事長)は任期中は評議員にも就任する。大学法人化で評議

東京陵水の皆様、明けておめでとうございます。

今年、「選挙の年」から「経済の年」へと世間の視点が大きく移り変わるうとして

あります。石油価格の高騰、米・中国経済の減速等の影響が為替相場の動向と相俟って、回復基調にある日本経済に如何なるインパクトを与えるのか、予断を許さない状況にあります。

会員の皆様におかれましては、新たな緊張感を持ってこの新年を迎えられたこと存じます。

さて、今年の陵水会東京支部の課題は年次幹事の会の強化とそれらを通じてのネットワークの拡大であります。同期会の集まり、クラブの同窓会等はかなりの頻度で開かれております。そこでの情報交換が集約されて東京支部へ集まり、支部会員諸兄のご活躍を把握したいと考えるからです。

昨年、国立大学法人化のスタート年に当たり、陵水会も堀川新理事長の下、新しい施策の検討・実施につき幾度か協議を重ねてまいりました。そのメインテーマの一つが陵水会と学生との交流を促進しようということです。この点に関し東京支部は多方面で活躍する多くの人材

を擁するため会員諸兄のご活躍状況を把握し、学生との交流会への積極的なご参加をお願いしようと思っております。

現在、東京支部の年次幹事の会は年に一・二度開かれておりますが、従来の会合とは別に年次グループを大別して開催しようと考えております。

次なるもう一つの課題は東京陵水インターネット・ホームページ

平成十七年の年頭にあたりて 宇治原 嘉政 理事長

ージ (2.ocn.ne.jp / ryousui) の更なる活用であります。会員諸兄にはI/T業界で活躍されている方、またPCに詳しい方も多くおられることと思っております。

現在のところ東京陵水のホームページは「東京陵水」編集委員の大原孝明氏(大38回卒・国交省勤務)の頑張りによって支えられております。多くの方のご参加を得て年次幹事の会と並ぶ情報交換の場として盛り上げていければと願う次第です。

少子化とともに大学全入時代に入り、大学は卒業生の就職活動以上に入学生の確保に注力する必要に迫られつつあります。

このような状況変化のなかで国立大学法人はその研究と教育の質の向上を求められ、厳しい外部評価を受けることになりました。東京陵水の諸兄におかれましては、自らの経験・ノウハウ・知識をご提供いただき、学生の勉学への啓発にご助力いただきますようお願い申し上げます。

更にお願いがあります。本部会費・支部会費のご納入に関するお願いであります。母校へのサポート体制を強化するためには現状の予算規模はあまりにも過少であり、会費納入率の引き上げが喫緊の課題となっております。会費のご納入につき特段のご配慮をお願い申し上げます。

陵水会本来の目的であります。今年も五月に支部総会を開く予定であります。大十七回卒の方々に準備していただいております。なにとぞ奮ってご参加のほどお願い申し上げます。ゴルフ会(副幹事長 山本保氏担当)も昨十二月六十回記念を開き、会員相互の親睦の良い機会となっております。また碁の会も盛況だと伺っております。今後とも会員親睦の機会作りに皆様のご提案を期待しております。

ご提案を期待しております。

委員会もいろいろなテーマを検討することが多くなる。東京支部の意見を集約するには、執行部全員が評議員になることで東京支部の意見の集約をきちんと表明できるのではないかと。執行部退任のときには自動的に評議員も辞める。定員十六名の残りの八名は年代分布、業界その他の事情などを勘案して二期四年くらい単位で選んでゆく。

現評議員のうち退任者についてはその事情について宇治原支部長から説明があり、七名が来年度総会を機に退任することになる。

今後支部規約の全面的改定を検討するため小委員会を作るとの提案も諒承された。

十七年度総会について…当番幹事を代表して柴原良昭氏(大17)から現在までに進められている内容の説明があった。開催期日は平成十七年五月十八日(水)、会場は後楽園会館(十六年度に同じ)。会議次第の説明の後、特別講演会の講師として、トヨタファイナンシャルサービス(株)代表取締役社長、尾崎英外氏にお願いをしたとの報告があり、講師依頼の経緯事情、講師の経歴などの紹介があった(詳細は後報の予定)。

後報の予定)。

東京支部ホームページ…利用状況について大原孝明氏(大38)から説明。掲示板、訃報欄、会員優待(不動産仲介手数料の割引など)ページの開設、広告などをホームページに搭載。同期会、クラブ同窓会の開催日程を含めた情報を、積極的に提供交換して欲しい。ホームページを手伝う若い会員を募集している。

「東京陵水」紙の発行準備…鈴木重成編集委員長(大7)から、現況を報告。最近同期会、クラブの集まりの情報が不足しているため、開催報告は是非寄せて欲しい。碎けた内容の企画も考えている。会員のご支援を願う。

支部年会費の納付状況…現況について田村寿夫副幹事長から説明があった。本年十月三十一日現在では、支部会員登録数一九二三名のうち、納入者は三〇二名で納入率は十五・七パーセントである。徴収方法について他支部の納入率の向上が支部の活性化に繋がっている例も参考にして改善を図りたい。また支部会費と本部会費の徴収を連携した形で取り扱うことも考えた(今年度会費納入者を十五ページに掲載)。

この後、懇親会に入り午後八時半過ぎに終了した。

成瀬龍夫氏（元経済学部長）

は平成十六年七月、滋賀大学学長に就任されました。編集部は昨年十月十八日、彦根に成瀬学長を訪ねました。面談要旨は以下の通りであります。

——本日はご多用中のところをお邪魔いたしました。申し訳ございません。以前、経済学部長時にお話をお伺いしておりますが、今回は、滋賀大学学長に就任されてのお話を承りたいと思います。学長に就任されてのご抱負やご方針につきましては、インターネットのホームページや「陵水会年報」などでも拝見しておりますが、直々にお話がかげればと参りました。大学は法人化ということになりましたが、四月以降、どのような学園の変化がございましたか。



自由、責任、財政難

学長 まず最初に申し上げたいのは、世間の方々や大学の内部においてさえ、多くの方が、大学法人化について誤解なさっているところがあるということです。殆んどの方が、「独立行政法人」になったとおっしゃるのですが、正しくは「国立大学法人」です。当初、大学の独法化といわれ、マスコミでもしばしば誤って報道されてきましたので無理もないことですが、独立行政法人という枠組みは活用しておりますが、独

法ではない。独立行政法人は国の外郭団体で、極端なことをいえば国の決めたことを単に実施するだけの機関です。それに対して国立大学法人は、国に対する自律性と自由な企画機能を備えており、基本的に違います。各大学は六年間にわたる中期目標・中期計画を自ら作成し、文科大臣から認可を受け、その実施・実現をはかるという責任を有しています。目標・計画を自ら自由に作成し実施していきますが、同時に責任も大きくなったということが法人化の本質です。大学の運営面では、今までと様変わりして、名実と

もに学長にリーダーシップが集中することになりました。その学長を支える体制として、法律に基づく役員会（理事会）があります。大学の基本的な執行機能です。それをサポートする審議機関として経営協議会、教育研究評議会があります。

法人化とともに大学財政はどうなったかといえば、この大も前年度より総額が減らされ、今後減る見通しです。大学は財政対策として国の財政「効率化」策に対応した経費の抑制、自己収入の増収確保、外部資金の獲得等を急いで検討しなければなりません。経費の面では人件費が全経費の八割を占めますが、その対策が急がれます。自己収入では、人口少子化時代に大学志願者数をどう減らす、あるいは昇給の抑制だとかも数々の確保が必須ですね。

以上のような状況ですから、ここで国立大学法人化についてのキーワードをあげるとすれば、「自由」「責任」、それに「財政難」の三つですかね（笑）。文部行政の財政の面からも

インタビュー 「国立大学法人としての滋賀大学」 滋賀大学新学長・成瀬龍夫教授に聴く

法人化が進められたと聞いておられますが、

学長 大学予算のあり方の変化からいえば、今までなら、台風が来てどこかが壊れたから補修費を出してくれと中央に言いますと、ちゃんと出してくれませんでした。今後は、法人化したとき損害保険をかけたであろうというところで、簡単には出してくれませぬ。また、大学には授業カリキュラムを充実させる必要から非常勤講師がたくさんいますが、その大幅な圧縮を余儀なくされています。

平成十七年から二十一年にかけて大学財政は非常に厳しくなります。国から新たな予算ルールと称して「効率化係数」が適用され、人件費や物件費について標準的経費の一定率の削減が行われます。このままでは、教職員の数を減らす、さらに昇給の抑制だとかも起こつてきかねません。

とはいっても本当のところ、法人化後、これといってまだ目立った変化はありません。これは、政府・文科省の姿勢もやはり大きい。政府・文科省のほうも、法人化したのが国立大学、あるいは私学になったわけでは

ない、基本は変わらず国立大学ですよと言っています。確かに政府が六割もの運営費交付金を出していますから、やっぱり国立大学であることに変わりはない。国の財政事情が悪いので、法人化がそのしわ寄せの手段になっていないことは間違いない。

しかし、冷静にみるとそれだけではありません。日本の高等教育は学生の低学力問題など世界的水準に比べて遅れ始めている。結局、政府・文科省がいつの間にか、「国立大学への財政支援の方法は根本的に変わりますよ。外部からの資金を積極的に獲得し、効率的な法人経営を工夫し、社会評価の高い競争力のある大学を目指してほしい」ということですね。そのために、文科省はCOEや教育支援プログラム、教育ニーズプログラム等を次々と打ち出して、全国の大学の競争を組織しているわけです。ただし、こうしたプログラムが大学の生存競争の手段にされてはたまりませんがね。

——学生なんかの変化はどうですか。

学長 先日、経済学部の学生が、学生総会を開くから、法人化になってどのような影響があるの

今までの様変わりして、名実と

文部行政の財政の面からも

あるいは私学になったわけでは

ない、基本は変わらず国立大学ですよと言っています。確かに政府が六割もの運営費交付金を出していますから、やっぱり国立大学であることに変わりはない。国の財政事情が悪いので、法人化がそのしわ寄せの手段になっていないことは間違いない。

か話して欲しいと申し入れてきましたので話しましたが、学生諸君にもまだこれといって身近な変化はありませんね。

学長はかすがい

——教育学部との関係は如何ですか。

学長 いまのところ変化はありませんが、まず、大学としての

全学的体制の重要性を明確にしたいと思っております。外部から教育研究資金を獲得するために、学部が努力していろいろなプログラムに応募しています。しかし、文科省の意図は、学部単位でプログラムに応募して欲しいというのではありません。つまり学部としてではなく、大学全体としてどういう位置付け、展望のもとにそういうプログラムに取り組みたいのかということが基本的な考え方になっています。大学に対する各種の外部評価、第三者評価はますます大学というレベルでなされるようになっていきます。

——かつてのように、両学部が反目しあいながら競り合うということはありませんか。

学長 私は大学の評議員や経済学部長もやり、歴代の学長のご苦労をよく見てきたのですが、



学長のご苦労で一番感じたのは滋賀大学の一体性の確保ですね。歴代の学長が全学統一の入学式をやるのにどれだけ苦労したか、その次に全学統一の卒業式をやるのにどれだけ……。そういう観点からいえば、学長の果たす第一の役割は、両学部のかすがいであるということ。蝶番論ですね。

六〇キロ離れたキャンパスに両学部があるという状況で、自然発生的に両学部の仲が良くなるという可能性は大げさにいえばゼロ、むしろ喧嘩をする可能性大です。ですから、われわれ新しい役員会は両学部との風通しを良くすることを通じて、両学部のあいだの相互理解、学部だけで対応しようとせず全学的な視点での問題の解決を願って

やっています。両学部長には、月初めの役員会には出席していただいて、それぞれの教授会の状況をご報告いただいています。早速、両学部でのいくつかの懸案問題の解決を全学的に解決しようという方向になっています。

民間企業ですか。

学長 民間企業なら間接部門や

不生産部門を合理化してプロフイットブルな組織に変えていくでしょうが、収益事業でない大学の仕事や部門はそうはいきません。経済学部だけです。授業料だけで黒字になるのは。教育学部は無理でしょうね。

大学の収入の四割が授業料です。なので、学費政策が早晚大きな課題になります。しかし、私学と違い国立大学には財政経営に幅がないんです。収益源が限られている。いくら外部から資金を取ってこいといわれても、とくにわれわれのような文系の大学にはチャンスは少ない。日本の国立大学は資産もない。滋賀大学の全財産は二百億円くらいですが、ハーバード大学は二兆円の資産があるそうですからね。

今後、施設の新設、増設も極めて困難になっていくおそれがあります。先ほど災害による被



として個人的に参画していた以外、滋賀県と「連携」といえるほどの関係はなかったように思えます。ただし、個人として審議会の委員になったりしても、大学としての組織的貢献とは見られません。今は組織的な貢献や連携が問われる時代ですから、新しい動き、努力が育っています。

害への対応もままならなくなるというかもしれませんが、校舎が老朽化したからといってそう簡単に建て替えなどいかないでしょ。以前なら、基準や資格に応じて要求をすれば、予算措置があつたわけですが。

——話は変わりますが、県に対する関係は国立大学は薄いといわれますが、滋賀県と大学との関係はどうなんでしょうか。産学提携なんかとして。

学長 大学からすれば地域社会への貢献、一般的な言い方では地域連携ですね。私の印象では、教育学部は環境教育などで滋賀県との具体的つながりが、わり

に早くからあったようですが、大学本部のある彦根は県庁とかなり距離があることもあって、経済学部の教員が審議会の委員

私自身学長として滋賀県産業振興推進会議の委員、環びわ湖大学連携推進会議の委員をやっており、また滋賀大学には産学官連携事業に取り組んでいる産業共同研究センターや地域連携センターがあります。両学部も積極的に地域貢献活動に乗り出しています。また今後本学と県立大学及び滋賀県琵琶湖研究所の三者が、環境問題について共同事業に取り組む可能性があり、本学がそのために中心になつてもよいと考えています。

三つの課題

環境、リスク、国際交流

——教育と研究の中期目標の取組状況は如何でしょうか。

学長 前学長の時に、六ヶ年間の中期目標と中期計画を作成する過程で議論がありまして、結局、滋賀大学は、教育も研究も

両方の重視型で進むということになっていきます。滋賀大学は中期目標として、三つの重点目標を立てています。一つは環境に関する教育研究、二つ目はリスクをテーマとした教育研究。これはしばらくは経済学部の問題です。三つ目は国際交流として東アジアの大学との交流です。この三つの課題について重点的に教育と研究を進展させる。決して教育だけ、研究だけということではありません。

——かつての大学は研究が中心のように思っていたんですが。

学長 やはり両方の要素が必要だと思います。教育は、つい最近までは先生まかせでやられていました。教え方も試験の方法もそうでした。それでは駄目だということでも導入教育、途中教育、出口教育などを明確にしたカリキュラムをしっかりと組み、シラバス（講義実施要綱—Syllabus 編集部注）もきちんとしたものを作成しています。大学が教育優先で教えることは当然のことです。ただし、ただ教えりゃいいというものではありません。

その点で多少「手取り足取り」になっている部分も感じられます。大学生ですから、本人に研究させ考えさせるということ

です。能力のある学生は研究的なことに興味をもち、当然に大学院に進学します。大学院の重点化は国の文教政策の流れでもありまじし、滋賀大学も力を入れています。

もちろん、学部を卒業して社会人になる者のほうが圧倒的に多いですから、何といってもまづ彼らをきちんと育成して社会に送り出す。ただ、一昔前は学部学生だけ見ていたらよかったです。現在は、外国人留学生や社会人まで、第二第三のカテゴリとして見ていかなければなりません。大学院は高度専門職養成機関ですから、研究といいましても、いわゆる研究生養成の研究とは違いますね。

——大学院の経過は。

学長 滋賀大学の大学院は着実に成長してきております。一方、将来的には学部が心配です。少子化社会ですから、多くの学生数を期待できません。大学院については、両キャンパスともに専門職大学院をどうするかという問題にこれから対応することになりそうです。

——会計大学院とかの構想は。

学長 経済学部は、大学院の博士課程設置が成功したことによって二十一世紀に踏み出すパス

ポートは手に入れたと思っております。しかし、今後に必要な課題がないわけではなく、社会的ニーズとの関係ではやはり実学の伝統と実績を生かして会計大学院を開設すべきではないか。先日、OBの方から私にこれこそ学長がトップダウンでやるべきではないかとのご意見がありました。ただ、学科だった



観光学部を作ってもらえないかというお話でした。しかし、学内ではまだ関心がないんですよ。私個人としては学部までは無理でしょうが、学科としては悪くないと思います。

——教育学部の中に観光学の要素を入れるとかは。

学長 私は、場合によっては教育学部にどうかという意見です。教育学部は教員免許と直接関係のない二つの（ゼロ免）教育課程がある。環境教育と情報教育課程ですね。教育学部で知事の言っている観光関連の人材を育てたらどうか。例えば、環境教育過程に観光を加えたらどうか。近年は、環境プラス・アルファの時代になりつつありますからね。

一芸入試も視野に

——話ばかりですが、例えば島根大学は東京事務所を開設して学生の募集に当たったり、一般企業や私立大学から意見を募ったりしているようですが。

学長 入学試験はいままで滋賀県内でしかやってきませんでした。ところが、地方会場を設けることはできますね。賛成が得られるかどうかわかりませんが、できれば名古屋あたりに地方会場を設

けて、単に受験生の便宜を図るということだけではなくて、むしろ地元との相互理解、滋賀大学の宣伝の機会ではないかと思えます。また一芸入試なんかやりたいですね。ところが、「滋賀大学経済学部は優秀な経済人を育成するところであって、そんなスポーツだけ堪能な人間を入れても」という意見が一部にあります。

しかし国立大学でも、福島大学のように陸上競技部で凄い人材を集めている例もありますね。教育学部の特別選抜の学生のようにです。滋賀県は何といっても琵琶湖ですから、水上競技系なんかを考えるといいと思いますね。そういうことを就任挨拶で記者会見しましたら、経済学部のポート部の現主将と次期主将が、今後よろしくと挨拶に

来まして、新学長にすぐやっていただきたいということでした。私は、何も勉強できない学生をスポーツ目的だけで入学させよといってるんじゃない、基礎学力があった上でのことです。いままででも特別選抜はやっていてはいいから。立命館大もスポーツ推薦の特別選抜をやっていますが、決して学力を無視しているわけではありま

せん。

——大学の統合の問題は。

学長 二〇〇四年九月中旬の四大学長懇談会で一年間凍結ということになりました。協議を継続するという枠組みは残しますが、各大学の行動については拘束しないということです。何故そうなったかといいますと、法人化になりまして、統合よりもまず各自の大学の経営そのものをやらないと、ということ。もう一つは、教員養成系の再編・統合問題が進まなかったことです。ただし、四大学間の話し合いそのものには意義があったと感じています。

滋賀医科大学との統合は平成十三年十月に決っていました。が、今後再協議することになります。ただし、すぐには統合にならない。やはり仕切り直しの議論が必要でしょう。

——近江絹糸の跡地に教育学部を呼ぶキャンパス構想はどうでしょう。

学長 どうですかねえ。教育学部は特別な理由や自らの必要性がない限り彦根に目は向きませんね。ただ、法人化して、キャンパスの分散状態がいかに大学経営に不利であるかはあらためて痛感します。

——滋賀大の売り商品はなんですか。

学長 学長選挙の時に私はオンリーワン、ナンバーワンの大学づくりをと主張しましたが、これはシャープ(株)の長い間の経営戦略に示唆されてのことです。この観点から滋賀大学の売りを開発していかねばなりません。残念ながら、現在はオンリーワンはいくつかあっても、ナンバーワンは少ない。オンリーワンなら、滋賀大学環境総合研究センター、経済学部関連の「経済経営リスク専攻」やリスク研究センターなどあげられますが、それらも最近できたばかりで実績はこれからです。実績がないとナンバーワンにはなれませんからね。

——本日はお忙しいところ、貴重なお話を頂戴いたしました。本当にありがとうございます。



「ジュニア陵水懇話会」開催

宇治原支部長、講師で出席

「ジュニア陵水懇話会」が、去る十二月三日(金)午後四時十分から同六時十分、大学内にて開催され、当支部の宇治原嘉政支部長が講師として出席した。この会は、入学早々の一回生をおもな対象として、企業活動の体験、実績を通じて、大学生の示唆をいかに送るべきかについての進路を拓くための一助とすることを目的として開催されたものである。

当日は、陵水会堀川馨理事長の挨拶に続き、宇治原支部長、桂泰三氏(本23・シャープ(株)元副社長)が講師を担当、「学生に語る」のテーマのもと質疑応答を交えて、有意義な会が進行された。

出席した学生達は、熱心に受講し、挨拶にたれた阿知羅学部長、司会の内田教授からも大きな評価が寄せられた。

陵水会と大学、現役学生とのつながりが、このような機会を数多く持つ事で一層強化されることが期待される。

経済学部附属資料館で企画展「近江商人 中井源左衛門」

経済学部附属資料館では、平成十六年度企画展として、「近江商人 中井源左衛門」——新資料を中心に——を、去る十一月十一日(月)〜十一月十九日(金)にわたって、同資料館にて開催した。滋賀県蒲生郡日野町に居を構えていた「近江商人」中井源左衛門家に伝来した資料のうち、これまで公開されたことのないものが展示された。

資料館では、江頭恒治、小倉栄一郎両教授の偉大な研究業績のもととなった、従来からの膨大な同家資料に加えて、このたび新たな資料の収集が実現し、合わせて一万九千点の中井源左衛門家文書を保管することになった。これは母校における研究・教育のみならず、日本商業史、近江地域史研究にとっても多大な成果をもたらすことは疑いない。

展示資料は以下の内容である。中井源左衛門家について…「金持商人一枚起請文」反木および拓本(江戸時代の商家の間で尊ばれ、版木が多数出回った。中井家二代源左衛門光昌がこの証文を浄書したものにより彫られ

たもの。証文内容別記)。初代源左衛門光武夫妻木像。四代目源左衛門光基「掟目」。五代目源左衛門光康「掟目」。中井家の経営活動…店卸勘定帳正徳五年・一七一五年。大福帳寛政六年・一七九四年。京店系商高記 明治三十三年・一九〇〇年。店卸帳 大正六年・一九一七年。大福帳 昭和七年・一九三二年。



中井良祐翁寿屏風



商用筆筒

八ページ下段につづく

陵水会東京支部監事

高木 早苗氏 (本24回)

長年にわたり東京支部監事として、支部の会計監査を担当いただいている、高木早苗氏(本24)をお訪ねし、四方山のお話しをお聞きした。

暑さ厳しい八月末の午後、練馬区石神井公園近くの閑静な住宅地のお住いをお訪ねし、ラブラドル種の愛犬の「ワン」の一声に迎えられた。

〒一七七―〇〇四一
東京都練馬区

石神井町七―十八―十
電話〇三(五三九三)三九八六

―本日は、ざっくばらんなお話しをお聞かせ願えればと思います。高商時代の思い出話からお話しを始めさせていただきますいと存じます。ご出身は岐阜県と承っています。

高木 岐阜県は関が原です。あの「天下分け目」の関が原です。

―当時、関が原ですと、学校へは汽車で?

高木 そうです。東海道線で通

いました。当時は蒸気機関車で、トンネルで窓を開けると真っ黒になってしまいましたヨ。スピードが遅くて、しかも米原駅で北陸線との連絡のため一時間か二時間待たされる時もありました。毎日、午前六時三十六分の列車で通いました。

―関が原から通っていた方は他にいらっしゃいましたか。



高木 小学校から彦根経専までずっと一緒だった後藤正規君(昨年四月他界)が通学仲間でした。それにもう一人、当時の彦根東高校の先生であった、三

年先輩の女性の先生がおられました。大垣から乗ってきた学友もあり、後には十六人くらいが一緒に通学しました。

―帰りも一緒になりました

か。

高木 帰りはまちまちで、醒ヶ井の養鱒場などへ学友といったりして散策しました。皆趣味も違いますから、一緒にどうこうといったことは無かったので。散策といえは三年の頃、友人達とテントを担いで、二泊三日で湖北へ行ったこともありましたよ。

思い出の学生生活

―彦根に進学されていかがでしたか。なにか同好会の活動をされましたか。

高木 彦根に入学するまでは成績で一点を争うサバイバル時代でしたが、入学してからはいろいろと楽しい交流が出来、今でも続いています。同好会は、先輩から勧められて「学術講演部」へ入ったのですが、当時私は他人と話を交わすのが全く苦手で苦勞していました。そこで話が出来るような機会を得て、この状態から逃げ出したいと思っていました。

―「学術講演部」というのは、弁論部みたいなものですか。

高木 そうです。その活動というの、教授一人と学生二、三人でチームを組み、高校の夏の試験休みに高校へ講演に行くの

です。自分でテーマをつくって、担当時間三十分です。江頭恒治教授とご一緒に、学友と八幡商業高校へ行ったり、長浜北高校、虎姫高校でも講演しました。高校生を全員講堂に集めて行うのです。

―どんなお話しをされたんですか。

高木 テーマは「単一為替レートの設定と日本経済」で、いろいろな学説の中から、高校生にも判りやすい話をしました。

―高校生の反応は如何でしたか?

高木 私の話の反応はともかくとして、思い出すのは、江頭先生が黒板に一本の線を引かれて、線の一方から過去、現在、将来を示し、どうして歴史というものを学ぶのか、それは過去を大きく振り返ることによって将来というものが大きく見通せるんだと話された事です。

―当時の高校生にも理解されたわけですね。

高木 そうなんです。私にも彼らの反応が良く判りました。相手がどれくらい理解出来るかを考えながら話す事です。先生は、堂々とした講義をされましたね。

―なにかスポーツはやってお

いたようである)。金壺。

中井家の出店と商用算筒…商用算筒。文書葛籠。(中井家の史料の特徴は全国各地の出店・枝店の史料が多く含まれていることである。それらの史料が出店・枝店ごとに付箋を貼られた葛籠や算筒に整理されて収納されていた)。

中井家の文化活動…「馬見岡社旧記」版木および刊本 文化二年一八〇五年(日野の綿向神社を「延喜式」神名帳記載の「馬見岡神社二座」にみたて、碑文、縁起を載せて刊行したもの)。

中井良祐翁寿屏風(光武―良祐が八十八歳および九十歳を迎えた際に、多くの人々から贈られた祝いの和歌、漢詩が記された短冊や色紙を貼混せて作られた)。

日野と水口…江州日野三町絵図正徳五年・一七一五年期(近世の日野の中心地は村井町、大窪町、松尾町の三町であった。色分けされた道筋、寺社の位置が明瞭である)。水口城下絵図文政十三年・一八三〇年(水口城の外に広がる町人地の描写以上に城の内側に建つ家臣の屋敷、長屋などが詳細に書かれている。中井家は水口藩の下で年貢の徴収、日野の町政に関

わ

られましたか。

高木 卓球を少しやっています。大垣中学から一緒に彦根へ進学した佐川義泰君（卓球部の創始者？）に勧められて……。

—— 思い出の先生のお話しをお聞かせください。

高木 森順次先生が、お声が通った非常に言葉の明快な講義をされるので、その訳をお訊ねして見た時、実は謡曲をやっておられたとお話でした。社会人になって、当時の東海銀行に就職してから謡曲を少し習いました。学生時代には金が無くてとても習えなかったことでした。山下勝治先生（神戸大学）の集中講義を受けたのですが、簿記のことを「簿記学」という

独特の呼び方をされていて、非常に理解しやすい講義であったという印象が残っています。

三年生の時のゼミは山本ゼミです。山本安治郎先生には、ご病気のため一年を通じて教えて頂いたという事は無かったのですが、むしろ卒業してから、先生の薫陶を受けました。学問的なこと以外に、人生としてか

あるべしなどということを通して、言のうちに教えられました。

—— 楽しい思い出としては何かありませんか

高木 通学組みでしたから、彦根での生活そのものはないんですが、今になって仲間の告白を聞いて、〃こいつそんなことがあったのか〃ということもありました。通学列車の中にその頃の美人女優高峰三枝子に似た女性

性が出て、彼女にアクションをかけた奴がいたというのです。（笑い）

—— そうそう女性といえば、当時学校に一年先輩で唯一の女性が聴講生として通学していました。

サラリーマンから会計人へ

—— 就職は当時の東海銀行でしたね。

高木 そうです。本店に入りました。

—— 何年くらい銀行に勤められたのですか。

高木 六年十一月です。就職時はサラリーマンと言うものが全然判らなくて、とにかく収入を得るためにというのが私の一番の願望でした。

—— お勤めから税理士資格取得まで、大変なことだったと思いますが。

高木 私の卒業した年に「税理士法」が成立したのですが、これがどういふものなのか判らず、果たして税理士で食ってい

けるものなのかも疑問でした。卒業時に国家公務員試験も合格していたのですが、やはり収入の面で東海銀行を選びました。銀行では札幌定から預金、為替、そして貸付も担当しました。税理士の試験を通った時人事部長

にご挨拶に伺った折、「君、苦労したろうな」などと言われて驚きました。新聞の合格者発



表をご覧になっていたのです。卒業の時から、税理士への夢をもっておられたのですか。

高木 そうですね。〃税〃と云う事に対しては関心を強く持っていました。学生時代も小倉栄一郎先生のゼミに入り、同時に先ほどお話しした山下先生の理論的かつ実務的な教えに強い

関心を持ちました。

—— 「陵水会計人会」発足のキツカケはどんなことからなのですか。

高木 われわれ職業会計人というのは孤独な立場なんです。〃守秘義務〃というのがあって、ざつぱらんに「これはどうだ」というような話をするわけには

ゆかない。そこで彦根という同じ学校の卒業者ということであれば、何でも相談出来るのではないかと、何でも相談出来るのでは

ないかということから、こうい

った会があったらなあ、と考えたのです。たまたま、当時東京

陵水会の監査を担当しておられ

た辰巳正衛先生（本16）が、動

五等の叙勲をされた折、職業会

計人でお祝いの会をもったのが

キツカケでした。今から十五年

くらい前だったでしょうか。

—— 陵水会の中では組織的に最も活発な会ですね。

高木 そうですね。京都支部は、毎年滋賀大の学生に対する指導

をやっているようです。今度、全国的な組織を作ろうというこ

—— 最近、新聞紙上で伝えられた「会計学科大学院」構想についてのご意見はいかがですか。

高木 滋賀大も是非つくるべきだというのが、われわれ会計人の強い要望です。遅れをとらないでやらないと、大学の特色

が出ませんよ。

—— 会計人として大切なことは

高木 先ほどお話しした、先輩

の辰巳先生の教えの中で、私ども

も会計人の仕事は「あまり大きなことをやるな」という言葉が

あります。「大きな仕事」だと思

って飛びつくということは避

けるべきであると言われるので

す。そういうところには、落と

し穴があるのです。やはり法

に違反せず、しかも納税者の信

頼をかちとって仕事をしなくては

東京陵水へ一言

—— これまで東京陵水会とかかわって来られてどう感じておられますか。

高木 辰巳先生が長くやってこ

られた後、私が監事を担当して

参りました。川本茂支部長の時からです。その時から監事を二名体制にして、総会での監査報告を行うようになりました。最

近、歴代支部長のもと、東京支部はいい方向に向いていると思

います。支部の動きが活発化し

ています。一番肝心なことは、

総会に出席して会費を納めて頂

くということですが、この点、

同期生を誘って数多く総会に出

席するようになってきていると

見られるので、結構だと思いま

す。

総会の担当幹事制も、一回や

って終りでなく、出来れば前期、

当期の二期合同でやったら、総

会への関心もより広がるのでは

ないでしょうか。支部会員二千

人なら、せめて一割の二百人く

らいの参加が欲しいですね。ま

た支部幹事体制の充実、評議員

規定の見直しなど、時代に合わ

せた制度の運用を考える時だと

思います。

随想 ドイツを夢見て

竹内政太郎(本21)

私は少年の頃、ドイツへ行く

ことを夢見ていましたが、幸い

にも商社員ならびに外務省専門

調査員としてベルリン、ハンブ

ルグ、およびデュッセルドルフ

にあしかけ十四年ほど滞在する

ことができました。ドイツに憧

れたのは、ドイツのイメージに

日本の姿を重ね合わせてみてい

たからです。ドイツと日本が似

通っているのは、いずれも近代

国家に不可欠な統一が遅れ、産

業革命も列強諸国の中でドイツ

がブービー賞、日本がしんがり

を務めたほど後発国だったこと。

これが第二次世界大戦を引き起

こす遠因にもなったようです。

た欧州の盟主として、日本とは

際立ってしつかりした、次のよ

うな面を持ち合わせています。

日本とのちがひ

戦後の英米仏露による占領か

ら開放されるや、成年(十八歳)

男子に十八ヶ月の兵役義務を課

した事。宗教的理由でこれを拒

否する者には五割増期間の福祉

施設での労働義務が課せられま

す。この制度は国、州、商工会

議所および企業により営まれる

職業学校と併せて若者に社会訓

練と技能教育を施すのに役立っ

ています。

欧州では冷戦終結により、大

国間の戦争可能性が消滅したた

め、ドイツ連邦軍の主任務が国

を限度とする」ことを取り決め

たマーストリヒトEU条約です。

これと対照的なのは日本の財

政赤字が、ドイツの旧東独救済

のような重荷が無かったにも拘

らず、既に国内総生産の一四〇

パーセントを超えて尚毎年増え

続けている事です。

保健と余暇の楽しみ方に国を

あげて取組んでいる事。国際村

では海から吹き風が嫌われてい

ますが、ドイツではこの風が北

海からバルト海に及ぶ海岸に軒

を連ねる療養所で「潮風療法」

として活用されています。

これは海上から吹き寄せる塩

分を含んだ潮風が虚弱体質に抵

抗力と活力をよみがえらせると

いう医学的な知識に基づくもの

だそうです。

温泉もドイツでは保健と医療

にしっかりと組み込まれており、

常駐医師による検診付きで長期

療養に利用されています。温泉

に恵まれた日本の温泉利用が旧

態依然なのは誠に残念です。

歎びから生まれる活力

またドイツには戦前から「歎

びを通して生まれる活力」とい

ういわれがあるため、ドイツ人

は平均年六週間の休暇を夏と冬

に振り分けて楽しんでいます。

平日も通常六時頃までには帰

宅できるので、十時頃まで明る

い夏の夕べには毎晩、隣近所を

誘ってホームパーティーを催

し、休暇旅行中の四方山話やジ

ョーク(ドイツ語ではヴィッツ)

を披露しあいます。

一九八〇年代にデュッセルド

ルフで聞いたジョークを一つご

紹介します。

「ある日ゴルフバチョフソ連共

産党書記長とブッシュ(父)米

大統領が会合した際、どうも最

近世間が物騒になってきたので

今後予想される凶悪事件の情報

に詳しい悪魔放送局に電話で尋

ねてみようということになっ

た。そこで先ずゴルフバチョフ

が長電話の末、通話料として六コ

ペイカ(当時約十円)を支払っ

た。続いて電話したブッシュの

電話は数分で終わったのに、三

——ご趣味はゴルフですか。

高木 明日も行くんです(笑い)

健康のためにね。車で三十分く

らいのところにあるコースの準

会員です。あとは、朝、近くの

石神井公園を犬と散歩するくら

いでしょ。二、三時間は歩

きます。

——本日は、いろいろとお聞か

せいただきありがとうございます。

カントが唱えた永久平和の理想

実現を目指してEUを築いてき

た

ドイツ人には日本人と同じ合

う律儀さやウエツトな面がある

こと。これもまた中央集権に遅

れた反面、地方色豊かな伝統が

温存されたためと思われま

す。

さりながらやはりドイツは、

実現を目指してEUを築いてき

それから石丸良久先輩

(陵水会宇和島支部設立へ)

宮野 幸雄 (大12回)

司馬遼太郎がその著『街道を往く』の中で「宇和島にこの人あり」と紹介されたのが、わが彦根高商本科二十一回卒業の石丸良久先輩である。石丸先輩のお住いは「愛媛県宇和島市丸の内」である。戦国武将、藤堂高虎が築城した名城宇和島城の真下であり、「東京丸の内」と同じく環状の中心に位置している。司馬遼太郎は『私は五月ごろの宇和島の景色が好きですね。桜も終わりになり、山の濃い緑のなかにヤマツツジの花が点々と開きます。クスノキの若葉も吹き出てくるようで日本の景色の中でも有数の美しさだと思っておりますが』(司馬遼太郎が語る日本。愛蔵版Ⅲ P138)と書いている。



右から筆者と石丸夫人

石丸先輩の家業「石丸綿業店」は、城山入り口前、丸の内の真ん中、通りに面して開けている。宇和島は戦災で大きな被害を受けた。戦後、市内に入り込んでいた内港を埋め立て、市街は整理された。惜しむらくは海との交流が少なくなり往年の渡し舟などの情緒は少なくなった。僅かに石丸先輩のご自宅辺りに宇和島の城下町のその良さが残っている感じがする。

私は滋賀大学入学以来、石丸先輩にとつて後輩に当たると言うことで四十年間にわたつて親しく面倒を見て頂いて来ています。また、社会人になってからは、毎年八月のお盆になると帰郷し石丸先輩とお会いするのを楽しみにして来た。今夏は、長男の結婚が九月にあり、私は九月になってから墓参りに帰る予定にしていた。



右から石丸先輩・筆者

すると、八月のお盆前に、家業を継いでいる小生の田舎の弟から、電話が入ってきた。「石丸さんから、兄貴はいつ帰って来るか、問合せが来たよ。」私は時々家にも来るけど、ナイス

は「ア！シマッタ、すぐ連絡するよ。」と言つて電話を切った。私は、長男の結婚式も無事終わり九月になって帰郷し石丸さんと一年振りにお会いした。会場所の料理屋に入つて行くと、石丸さんは既に着席され、前に座つた若者と会話をしておられた。石丸さんは八十歳。かくしやくとされている。毎朝の一時間の散歩の賜物かと感じ入る。石丸さんは、話に無駄がない。全く余分な形容詞はない。「宮野さん、この方は片桐君です。滋賀大学卒業生です。今度、伊予銀行宇和島支店に勤務となりました。これで、やつと滋賀大卒業生が三名になりましたよ」はにかみながら片桐君を紹介されるところでビールで乾杯となった。片桐君も笑顔絶やさずハキハキとした好青年である。私は彼に「出身は？」と尋ねると、彼は「近くの三間町です」と。



瑞宝章証書

「これで、滋賀大卒業生が三名になりましたよ」はにかみながら片桐君を紹介されるところでビールで乾杯となった。片桐君も笑顔絶やさずハキハキとした好青年である。私は彼に「出身は？」と尋ねると、彼は「近くの三間町です」と。

博士奥様が『日本には、大学は彦根にしかないのですか?』と呆れるばかりの彦根礼賛であった。外に出ると、宇和島城が大笑いしているようだった。

片桐君は、両先輩を前にして多少硬くなりながらも、打ち解けた様子でビールを酒のようにチョビチョビ飲んでいた。宴もたけなわ、私は、石丸先輩に話しかけた。「これで、陵水会宇和島支部を立ち上げましょう。」「良い提案だ、それじゃ、これから我が家で支部設立記念の飲み会を続けてやろう。」三人は揃つて二次会の石丸家に向かった。玄関には華岡青洲が外科手術の麻酔に使つたマンダラゲの白い花が一杯咲いていた。居間に通された。居間には、長年の保護司の功労で今春授与された瑞宝章が掛かっていた。博士奥様が『日本には、大学は彦根にしかないのですか?』と呆れるばかりの彦根礼賛であった。外に出ると、宇和島城が大笑いしているようだった。

第四回近江歴史塾の開催
平成十六年七月二十一日(二十一日)にわたり、第四回近江歴史塾が江戸東京博物館ホールにおいて開催された。この滋賀県の歴史、観光のPRを目論んだ講演を主とする勉強会も次第に認知度が高まり、会を追うことに盛況を呈してきている。
今回は、彦根城博物館館長、石丸正運氏が「近江文化の精華―山と森と湖が育んだ美」をテーマに一時間十分、休憩を挿んで、比叡山延暦寺学門所の小林立隆彰天台宗大僧正により「比叡山の生きている文化遺産」について、それぞれビデオ画像の拡大投影を使いながら行われた。前者では、天台密教の興隆が滋賀県内の仏教美術を高め豊富にしたことを、近江の地勢、山岳信仰から説き起こし、古くからの神々の信仰と仏教との習合があり、更に南都仏教から天台密教に進み、湖東三山などを形成したと解説。後者では、比叡山の千日回峰の修行のもつ信仰の深さ、尊さについて説明があり、比叡山の諸堂、お山の大自然の話では聴講者の興味を誘われた。

図書紹介

「年年歳歳」 粕淵健三氏
(大4回)の自費出版(百九十二頁)。十六年十一月一日発行。

「醉芙蓉」

平成十四年八月中旬のNHK

テレビ番組「そして歌は誕生した」の中で、石川さゆりの歌う「風の盆恋歌」が紹介されていた。筆者が金沢支店勤務の頃、地元銀行の案内で富山県八尾町の「風」の盆を見学したのが「越中おわら節」との出会いです。

作家高橋治は、この八尾町を舞台に「風の盆恋歌」と題した熟年男女の不倫を小説に書いていますが、年一回「風の盆」で出会うために買った一軒家の庭に、朝の中は白いのですが、昼下がりから酔い始めたように色づいて、夕暮れにはすっかり赤くなり、それを昔の人は酒の酔いになぞらえたのでしよう。作中で「おわら保存会長」の任にあたる清原の言葉をかこう説明しています。

「で、酔った揚句がどうなりますか」と主人公が問うと……「散りますな」

「酔って散るのですか」

「一日きりの命の花です」

筆者も魅せられたようにこの花の命がかわれに思えて、数枚の千円札をはたいて鉢植えを買い求めました。二輪の蕾は文字通りの経過をたどり、果敢なく

散りましたが、翌年には蕾もつ

けずに枯れてしまいました。NHK園芸教室で見ましたが、東大(理)付属小石川植物園での実験によれば、二十八度を越え

るとピンク色に変化して花としての老化が始まり、冷蔵庫の中では色の変化は生じないとの事でした。「しとやかな恋人」という「花言葉」にふさわしい花だと思えます。

平成元年九月一日、高橋治、なかにし礼、石川さゆりの三人が作曲、石川さゆりが歌ってデビューしたのですが「ヒット曲」とはならなかったようです。

なかにし礼は、「風の盆」と言うタイトルで自ら作詞・作曲して菅原洋一に歌わせ、「そして歌は誕生した」でも発表しましたが、筆者には菅原の歌唱力が越中おわら節のもつ哀愁を表現できていないように思えます。

高橋治は昭和四年千葉県の生まれ。四高から東大(文)を経て松竹に入り、程なく作家に転

進、北陸の美しい自然を背景に、夢と現実の間を彷徨う大人の恋を、巧みな文章で表現してくれました。高橋治の魅力を教えてください。高橋治の魅力を教えてください。高橋治の魅力を教えてください。

彦根城表門橋に向かう中濠に沿った松並木で、四十七本あったのでこの名が付けられました。現在では三十四本に減りましたが、全て土佐から取り寄せた黒松で、根が地上に張り出さない事が、人馬の往来をさまたげないと、重宝されたようです。

往時をしのばせる面影に、時代劇映画の撮影舞台となってきた。日本人は松を、長寿を意味する瑞木として扱ひ、めでたい節操の高い木と考えて来たようです。新年や慶事の際は必ずこれを飾る習慣をつけています。

松によって形成される景観の美は、凡そ三種に区別されるようです。①松のみ群生繁茂した集合的美観、②一株二株姿勢の趣のある松の単独的美観、③他の植物との総合的美観で①は松原②は山野、神社仏閣の境内、名所旧跡の伝説故事に彩られ、③は闊葉樹と混成繁茂した総合的美観で、春は山桜の美と相映じ、秋は紅葉の彩りと交差して特殊な美しさを呈しています。

すぎ科の常緑高木で、わが国では最も重要な林業樹種。樹幹がまっすぐに伸び、大きなものは高さ五十メートル、胸高直径五メートルにも達します。樹皮は赤褐色または暗褐色の繊維質で、縦に細長く裂けてはげます。葉はらせん状に密集してつく鎌状針形で、基部は太くなつて枝との境がはっきりしません。春三〜四月に開花し、秋十月ごろ直径十五〜二十ミリの球果を結びます。

古今和歌集には、長寿と貞節を歌ったものとして
ときわなる 松のみどりも 春くれば 今ひとしおの 色まさりけり
(帝王に向かい、臣下の忠勤の誓いを表明するもの)
雪ふりて としのくれぬる 時にこそ つるにもみじぬ 松もみえけり
(松がどこまで待つても、紅葉しないことが分つたというものの)

万葉集には
茂岡に 神さび立ちて 栄えたる 千代松の樹の 歳の知らなく 紀朝臣 鹿人
(茂岡に神々しく立つて栄えている千年も経つたかと思われ

る松の木は、どのくらの樹齡であるのかわからないのです。) 松を神格化しているようです。

松を神格化しているようです。

松を神格化しているようです。

松を神格化しているようです。

ここに本書七十二編のうち二編を掲載させて戴く。



第五十八回東京陵水ゴルフ会
平成十六年六月九日(水)
金乃台カントリーC

第五十九回東京陵水ゴルフ会
平成十六年九月二十一日(火)
金乃台カントリーC

第六十回東京陵水ゴルフ会
平成十六年十二月九日(木)
金乃台カントリーC

梅雨の合間の快適日和

前日までの雨が上がり、涼しく絶好のゴルフ日和に恵まれて、上位入賞者は皆アンダーパー。なかでも前回二位、今回三位の名口さんはクロス74の素晴らしいゴルフで第一人者のベスグロでした。

優勝は副幹事長として過日の支部総会にご苦労の田村さんに感謝の賞?。盛り上がった一日でした。

記録 ネット(ハンデイ)

- 優勝 田村 寿夫(大12) 68(30)
- 二位 吉原 悟一(大9) 69(21)
- 三位 名口 幸夫(大14) 69(5)
- 四位 三宅 義雄(大6) 70(20)
- 五位 北澤勝太郎(短5) 71(11)
- 七位 楠田 迪彦(本24) 74(22)
- 十位 富田 博司(大15) 76(10)
- 十五位西岡 隆夫(大4) 79(23)
- 二十位平居 俊雄(大12) 82(15)
- BB 守谷 貞夫(大12) 91(11)
- ベスグロ 名口 幸夫 74
- ニヤピン 保正(本24) 三宅
- 平居 名口 富田 北沢 山本

(大15)

大波 井口(本21) 水平 楠田 参加者 二十九名(箸方記)

(大12) 中川(大10)

大波 野村 水平 橋本 参加者 二十八名 (箸方記)

残暑三十四度と強風下で

台風二十号の後、フエーン現象でなんと真夏日。もつとも十メートル強の風のお蔭で体感的には存外楽だったものの、スコアは前回と大違い。ベスグロ名口さんでも88で、初参加のハンデイ設定がやや甘かった?。二名の他は苦戦の一日でした。初参加者は優勝できないルールから、ネット76ながら佐藤さんが繰り上げ優勝、四、五位も初参加の上位でした。

記録 ネット(ハンデイ)

- 優勝 佐藤 秀孝(大10) 76(20)
- 二位 橋本 長夫(大6) 71(21)
- 三位 鶴見 芳令(大15) 71(26)
- 四位 宮田 昭大(大9) 78(20)
- 五位 野村 英機(大14) 78(27)
- 七位 木戸 彪(大16) 79(30)
- 十位 平居 俊雄(大12) 80(15)
- 十五位西沢 正本(大24) 84(14)
- 二十位三井 昭次(大10) 87(4)
- BB 浦谷 政夫(大7) 93(18)
- ベスグロ 名口 幸夫(大14)
- ニヤピン 野村 木戸 守谷

継続は力!!

満十五年、六十回大会 平成二年三月十三日、赤羽ゴルフクラブでの第一回以来、欠かさず年四回の記念大会を盛会をもって挙行。

小生が第一回を優勝以来、ゴルフ幹事長として当時参加の川本前々支部長、小池前支部長他、中辻(本21)、原澤、第二回から参加の葛上(本20)先輩などと継続、盛会を重ねて感無量です。これからも若手の皆さんの力で更なる発展を願うものです。ところで今回、新支部長からの新カップの寄贈を得、前カップの小池杯を次回平成十七年三月十五日(火)の例会に、第三十二回優勝の井口先輩(本21)、滝(大10)、竹内(大4)、柴田、寺田(大4)、小口(大14)、天木、箸方、三宅、丸居(大14)、確井(大6)中川(大10)、保正(本24)、川本、葛上、箕島、黒沢、守谷(大12)、三井(大

10)、山本、宇治原、浦谷、田村、佐藤の歴代優勝者で取切戦を併せて行うので是非参加下さい。なお五十回にハンデイ改正して、十回が経過、これらの記録を基に次回は新ハンデイに更新します。今回は風があり、グリーンが冬場に珍しい高麗のツルツル高速で、皆パットに苦しんだ結果、相当のオーバーパーの苦戦でした。

- 三位 三宅 義男(大6) 78(20)
- 四位 佐藤 秀孝(大10) 79(14)
- 五位 北村 徹(大14) 79(18)
- 六位 名口 幸夫(大14) 80(2)
- 十位 天木 清次(大8) 82(7)
- 十六位山田 進(大10) 83(7)
- 二十位原澤 伸治(大4) 86(19)
- 二十六位山本 保(大15) 89(17)
- BB 川本 茂(大1) 96(22)
- ベスグロ 名口 幸夫 82
- ニヤピン 宇治原(大7) 北沢(短) 天木 浦谷(大7)

- 優勝 箕島 安夫(大4) 76(17)
- 二位 田村 寿夫(大12) 76(18)
- 記録 ネット(ハンデイ) 田(大2) 参加者三十一名 (箸方記)

東京陵水会囲碁会便り

終了後直ちに表彰式を終え懇親会に移り、熱戦の後を振り返りながら、和気藹々で、次回(大12)の健康を誓いながら散会しました。

さる十一月二十日、本年度第二回東京陵水会囲碁大会を、全国情報サービス産業厚生年金基金会館で開催しました。総勢十八名の囲碁愛好棋士が集い、四回戦をスイス方式の採点方式で優勝を競いました。

熱戦の末、四名の全勝者が出ましたが、ルールに従って優勝は、栗本雅夫三段(大4)、二位は水引芳雄六段(大2)、三位は山崎昭雄初段(本22)が勝ち取りました。

幹事連絡先・電話・FAX
電話 〇四五一九四一一七六一
FAX 〇四五一九四一一七六一
E-mail gokichi@topaz.ocn.ne.jp
三井照次まで

彦根コンフレイデンシヤル

滋大陵水新聞会

国立大学法人化始動期の母校

OBの皆様もご存知の通り、国立大学法人化にもなつて今年度から本学は国立大学法人滋賀大学となった。始動期の現在、在学生にとって法人化による大きな影響は無いといって差し支えないと思う。実感があまり無いと言ひ換えても構わない。何故なら最大の関心事である授業料は当面上げされない予定であるため、現在の学生にかかわる最大の変化といえはカリキュラムの変化になるからである。

今年度の新入生は現二回生以上とは多くの面で異なつていゝ。入試制度から違ふのだ。今までは一次試験(センター試験)の科目が社会科学必須の三教科型だったものが、五教科七科目型と英・国必須の三教科型の併用となった。この変更の結果、実は受験者が大きく減少した。理由は英・国必須になり、理系の得意な受験生、センター試験の英・国の成績が芳しくなかった受験生が敬遠したためと思われる。

授業に關しても大きく変化した。その最たるものは必修科目の変更、追加だ。今までは一般教養科目および語学以外の必修科目は経済学科、会計情報学科以外にはほぼ存在しなかつたといつて過言ではない。それが、一回生からの新カリキュラムでは全員にミクロ・マクロ経済学や統計、簿記、科学方法論といったコア科目と呼ばれる選択必修科目が課せられるようになった。これらは語学同様に単位取得が進級条件となつてゐる。

また授業名の変更や第二外国語の完全セメスター化(英語に關しては〇二年度よりセメスター化済み)などの変更もあつた。だがこれらの変化は一回生とそれの上の回生との間で一時話しが通じにくいと言つた程度の影響しかなかつた。むしろ一般学生にとつては、変わつてゐる「らしい」というレベルにとどまつており、どこがどう具体的に變化したのかについて把握できてゐる者はおそらく少ない。回生間の物差しが違ふのだから、お

互いにより関心が無かつたり、当然の事と思ひ込んでいて氣付かなかつたとしたとしても仕方ないと思う。

法人化全般の影響では、運営資金の減少にもなつた財政難が原因になるものが多数表れてきた事である。先日行われたSFA(職員、教員、学生の三者で行われる大学改善のための話し合い)で明らかになつたものとして次の事項が挙げられる。先ず授業数の減少である。新カリキュラムのことを差し引いても明らかに減つてゐる。特にそれが如実に現れてゐるのは集中講義である。筆者は現在三回生なのだが、一回生の時と比べて約三分の一に減少してゐる。これは国から支給されてゐた非常勤講師向けの資金が打ち切られたためと思われ。今年度はまだ非常勤講師の授業はあるが、来年度以降は学内の常勤教員の授業に切り替えていくという。学内教員の負担増しに加え、学生側にとつても受けられる授業のバリエーションが減ることになりかねない。また図書館の図書購入費の百万円単位の大減や、設備の大型物品を国に購入陳情ができなくなつた。

資金の減額による影響が顕在



旧徳聖寮跡

梶内愛子

(滋賀大学陵水新聞会)

化してくるのは来年度以降であると予想される。来年からは国からの運営費が毎年三千万円づつ減らされる。またクラブ活動をしてゐる学生、特に体育系のクラブに所属してゐる学生は設備面での影響を次第に受けることになるだろう。今の状態でも、設備の現状維持が財政的にやつとの状態である。女子学生の増加に伴つて学生側から要求されてゐる女子更衣室の増設が、難しいとのSAF会議時の大学側の回答である。諸設備の故障を修理するにも速やかな対応が望めない可能性がある。

- 平成十六年度年会費納入者一覽 (平成十六年十一月末現在)
- 高安規玖次 宮崎保房(本5)、千葉 孝 松居敏郎(本11)、沼尻恒雄(本14)、船見祐治(本15)、井上誠五郎 西田昭一(本17)、高原孝則 早藤泰二(本18)、石田定夫 小林満男 高木克幸 野田泰三 古山利誠 目近武雄 横田春雄(本19)、赤尾力栄 葛上宗一郎 辻 暢夫 三浦信次 山口輝朗 山成 軒六(本20)、相道 章 井口 博民 梅沢誠質 河添治男 竹内政太郎 土田 茂 豊田弘毅 鳥居和也 中辻喜蔵 平井正徳 吉村行雄(本21)、辻雅仁 高山義雄 多賀芳則 寺本康郎 中山弘一 丹羽鑛治 橋本侃林 輝治 山口昭夫 吉田作馬(本22)、西尾 実 前川彌之祐 松本 義(本23)、大竹德行 岡田 浩 加納淳司 楠田勉彦 高木早苗 西沢 正 矢田圭三 保正 保(本24)、奥村忠雄(東1)、村田良一(東2)、井上泰一(東4)、川瀬孝太郎 加藤福志(東5)、落合忠一(別11)、西脇宏三郎(別12)、橋本久米一 日向保次 三上清一(工1)、外江龍太郎 杉本

哲堂(工2)、内海清安 川本 日下部百也 田川行雄 西坂徹 山哲也 武邑邦弘(大18)、西澤茂 小池英夫 外村英造 渡辺 雄 西田広彦 乗富俊二 藤井 弘行 丹羽信治 竹森二郎 戸貞二(大1)、乾 哲彦 井上弘 正義 藤本裕一郎 宮田 昭 田保延 宮川 誠(大19)、大八 大津恒夫 岡田 巖 亀井潤吉 吉原悟一(大9)、稲垣 讓 井 木 勉 坂井真修 平井善三 郷 治雄 柴田茂夫 刀祢館治 上善隆 石垣 康 小塩 守 (大20)、植野克美 外海泰博 男 宮崎 正 水引芳雄 四塚 佐藤秀孝 田中俊男 坪田清六 米山 脩(大21)、能島伸夫 池 行雄 渡辺陽彦(大2)、田中 豊原憲二 中川寿一 中村寿男 部敏郎 小林忠志 山脇一泰 博 神崎栄次 小八木俊雄 清 服部全孝 三井照次 山田宗弘 (大22)、稲波信一 深谷靖純 水克純 中川弥次 野口泰良 山本啓司 白井 健(大10)、関 (大23)、湧川勝巳 河江泰平 増田茂樹 用田政一 吉村 恒 惠文 富江善朗 野一色公平 徳山 均(大24)、安井喜重(大 矢野 昭(大3)、青山松太郎 坂東祥次(大11)、小原捷治 守 25)、上林好一 近森彦義(大26)、 今井常清 粕淵健三 北川 亨 谷貞夫 田村寿夫 平居俊雄 神田憲樹 藤川博志(大27)、加 新道隆弥 田岡譲一 竹内鋭二 堀内 和 堀川幸夫 山口和俊 藤義治 坂田周平(大28)、浅見 谷 文夫 辻 昇平 樋上不二 (大12)、赤木光明 小林三郎 徹 吉本準一 荒木俊雄(大29)、 子 中島義男 箸方海三 原澤 中村奎吾 星出 潔 若山 忠 磯野和也 野村孝治郎 藤原洋 伸二 広内士郎 松岡正曜 箕 (大13)、安部 誠 石田昭郎 一 吉田繁喜 和田昌信 丹羽 島安夫 福本俊昭 安江郁夫 小口 晃 加藤博善 北村 徹 康之(大30)、黒岩征一郎(大31)、 (大4)、天田志郎 岡田和義 古山捷二郎 土井健一郎 中村 岩田雄一 広田真哉(大32)、大 神谷 亨 井上明郎 龍口秀夫 弘 野村英機 古川浩司 吉井 橋 猛 清塚 徳 波多野信也 中川郁三 中西三二 樋上泰功 幹雄(大14)、海老 洋 大沢義 (大33)、岡武俊雄(大34)、吉村 細井恭一 平野 広(大5)、今 隆 鈴木 勝 富田博司 馬島 栄祐(大37)、大原孝明 北川昌 宿隆弘 白井 靖 大久保義雄 惟安 吉田勇夫 藤本幸延 神 樹 加藤雄三(大38)、原 弘 大谷毅丈夫 河合正紀 川村和 谷 端 三谷邦男 山本 保 (39)、立木賢一 松浦智和 脇 男 草生知治 小林仁実 児島 宮前秀昭(大15)、尾関一平 木 屋忠生(大40)、山下裕正(大41)、 正次 玉井義臣 中村博一 橋 津勝治 木戸 彪 嶋多 優 上田 脩(大42)、鈴木宗比古 本長夫 林 謙治郎 久木義雄 鈴木元宏 野村昌治 浜口栄治 (大45)、小森 聡(大46)、廣田 三宅義男(大6)、伊藤芳朗 市 松崎恭之 渡辺雅利 熊谷正和 豊(大47)、土井好憲(大51)、 川浩久 宇治原嘉政 宇野 進 押田樹幸 佐藤充宏 柴田豊彦 清水俊彦(短4)、日高信次(短 浦谷政夫 佐野 了 鈴木重成 重田稔彦 寺沢 優 志井重雄 9)、刈谷忠彦(短14)。

編集室 所感

京都清水寺の貫主は、平成十 六年を「災」の一字で大書表現 されました。内憂外患に満ちて いた昨年は、これからの時代を 暗示するようで憂鬱になりました。 今年「福」となす年になることを望 むや切です。

わが陵水会員にとって一番気 がかりなことは、国立大学法人 発足後の母校のこれからです。 陵水会が母校をどう支援してゆ くか、会員に突きつけられた課 題は少なくありません。陵水会 が母校を支援してゆくための基 本的姿勢について堀川理事長の 新年挨拶を受けて、東京支部と して活動の体系を構築してゆく ための具体策を宇治原支部長が 語っています。法人化後に初代 学長に就かれた成瀬学長から新 体制の抱える問題点についてお 聞きしました。現役の学生は彦 根コンフィデンシャルで、大学 の事業費に対し危機感を持って いて気がかりです。母校のため に何か出来たら、力になれば、 これが新年の祈りになります。

「会報」原稿・情報のご送付先

陵水会東京支部
ホームページアドレス
<http://www2.ocn.ne.jp/~ryousuit/>

林 史欣(大8回)
〒164-0014
中野区南台二一五一〇
(TEL・FAXとも)
〇三—三三八—四四三—

※編集室のメールアドレスを
chikayoshiyb@yahoo.co.jp
としましたのでご利用下さい。
(次号分メ切日五月末日)

発行所
〒236-0004
横浜市金沢区福浦1-14-9
守谷輸送機工業(株)
陵水会東京支部支部長 宇治原嘉政
電話045(785) 3716
印刷所
〒110-0015
東京都台東区東上野1-28-3
船舶印刷株
電話03(3831) 4181

年会費は東京支部活動の糧
積極納入をお願いします。

謹賀新年

株式会社トッパンNEC サーキットソリューションズ

代表取締役社長 田川 行雄 (大9回卒)

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-2-7 ☎03-3276-8181

港運・海貨
SEA FREIGHT HANDLING & TRANSPORT

物流センター
DISTRIBUTION CENTER

物流と人のハーモニー

TRANCY

国内一貫輸送
INTEGRATED DOMESTIC TRANSPORT

国際複合輸送
INTERNATIONAL MULTIMODAL TRANSPORT

日本トランスシティ株式会社

豊田 徳司 (大17回卒)

本社：〒510-8651 三重県四日市市千歳町6番地の6
TEL 0593-53-5211 FAX 0593-53-1846 <http://www.trancy.co.jp>
新オフィス (東京)

〒100-0004 東京都千代田区大手町2丁目2番1号 新大手町ビルディング2階
TEL 03-3276-3050 FAX 03-3276-3033



株式会社 金乃台カントリークラブ

代表取締役社長 大塚 英一

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 029-872-0182 FAX 029-872-3182

『おかげさまで開場40周年を迎えました!!

今年も皆様のご来場をお待ちしております』



図書出版 株式会社 潮流社

代表取締役 武田 吉史 (大30回卒)

◎一般文学書・海運関係書の刊行 (自分史等の自費出版もお引き受けします)

105-0004 東京都港区新橋2-12-11 (新橋27MTビル)

TEL 03-3580-5670 FAX 03-3580-5242

第17回 大近江展

会期：平成17年2月16日(水)～21日(月)

10時～20時(最終日は18時まで)

会場：日本橋高島屋8階催事場

【主催】(社)びわこビジターズビューロー【後援】滋賀県【協賛】東京滋賀県人会・全国滋賀県人会連合会

Mother
Lake